賛八会活動　（共催）

2015.12.14　「第２回学生コンペ」　平成 27 年度賛八会学生コンペを建築学部との共催にて行いました。

「平成 27 年度　第２回賛八会学生コンペ」の報告

第２事業部会

開催の状況

賛八会の事業活動の一環として「第２回賛八会学生コンペ」を平成 27 年夏頃に役員会により決定し、事業・運営の役員と建築学部の先生方とで進め９月の末より提出日 11 月初め迄（約１ヶ月強）に下記の課題が発表され、57 作品の個人及びグループから提出されました。

コンペ課題　「間伐材の茶室」

近畿大学建築学部 ・ 賛八会共催
第2回 建築学部設計コンペティション

「間伐材の茶室」

課題

サスティナビリティが社会的な主要テーマになって久しい中、 建築を学ぶ学生にとってもサスティナビリティに貢献する具体的な取り組みが求められている。

日本の人工林における植樹、樹木の育成と伐採、 さらに木造建築への利用というかつての循環が失われたことにより、日本の森林環境は悪化している。これは、日本の抱えるサスティナビリティ上の大きな問題となっている。近年、大規模木造建築を可能にする技術開発や林野庁が進める「木づかい運動」など、 国産木材の積極的な利用を通して、失われた循環を取り戻す試みが国をあげて進められている。

間伐材は、人工林の樹木を健全に育成する過程で生じる材料だが、 材木として小さいため有効に利用されていない。このため、間伐材を利用することは、日本の森林環境の保全につながる。

一方、千利休がつくりだした「茶室」という建築の形式は、世界でも類を見ない最小限の空間でできた人と人、人と自然の対話の場である。茶室を読み解くキーワードに「市中の山居」(都会にいながらにして山里の風情を味わうこと) がある。今回のコンペでは、建築学部1階ギャラリーのコンクリートとガラスの空間の中に、間伐材を利用した茶室を設計してもらう。近代建築の代表的な硬質な素材と間伐材の組み合わせは現代の「市中の山居」にふさわしい。 また、ここでは、茶室を、実際にお茶を点てる場ではなく、対話のための最小限空間と考え、千利休のような自由な発想で設計してほしい。

1等案は、実際に1階ギャラリーに建築する。 サスティナビリティに貢献する、人と人、人と自然の対話の空間の、新しい可能性が提示されることを期待している。

計画条件

建築学部1階ギャラリーの右図のエリアに計画する。

素材:ヒノキ間伐材　断面は編み込める程度の細いものから、最大直径200mm程度まで。最大長さ2m。 この範囲で大きな断面の間伐材は、製材して板材、線材、直方体ブロックとしても使用可能。
材料として、間伐材を主とし、固定等のために金物等を使っても良い。

提出物

＜A1縦使い1枚＞
提案コンセプト、設計趣旨、平面図・断面図（縮尺は自由）。その他パースやドローイング、模型写真等で設計内容をグラフィカルに表現すること。名前、学籍番号は裏面に記入し、表に応募者を特定できる内容を記入しないこと。

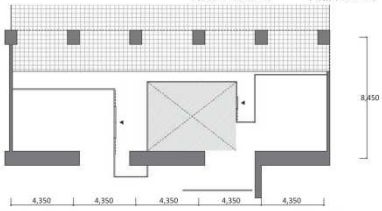
応募資格

提出時に近畿大学に在籍していること（複数人で応募する場合も全員が有資格者であること）

間伐材と日本の人工林

千 利休（1522-1591）

待庵（1582 設計：千利休）



計画エリア：建築学部1階ギャラリー
左図のハッチング領域
（面積：28m²、天井高3.25m）

結果発表・表彰式・展覧会

審査結果は受賞者に通知するとともに、建築学部掲示板、建築学部HPおよび、賛八会HP、アルブルHPにて発表する。
表彰式12月初旬予定。展覧会2月予定。

提出先

33号館　建築学部事務部

締切

2015年11月27日（金）17:00

審査委員

審査委員長　岩前 篤　（近畿大学建築学部学部長）

審査委員　松本 明、坂本 昭、戸田 潤也、松岡 聡、垣田 博之　（近畿大学建築学部学部）

賛八会　役員の方々（4名予定）

2015.12.12　33 号館８階会議室にてコンペ作品の審査を行いました。
審査は、事前に建築学部の先生方が 57 作品中 17 作品程に絞り込んで頂いたのでスムーズに選定できました。
賛八会よりは、細川純一・小栗祥弘・森田忠明・伊藤大輔４人で審査し先生方との総合により決定しました。

33 号館での審査風景

2015.12.14　19 号館にて表彰式を行いました。

最優秀賞　　1 作品
優秀賞　　5 作品
特別賞（賛八賞）2 作品
佳作　　11 作品　の表彰を行いました。

最優秀賞受賞者の表彰

19 号館での全受賞者登壇